

ヒアリング調査結果概要

(1) 現状と課題について

	現状と課題	まとめ
西東京市の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・西東京市の地域資源やメリット：アクセスの良さ（都心に出やすい、市内に5個の駅、等）、住みやすさ、子育てのしやすさ、緑や自然が豊か、農業があること、のどかでのんびりしている、地域密着やコミュニティ、人のあたたかさ・優しさ、人口が多く増えていること、熱意のある人や活気、不動産の安さ、地盤の強さ、創業支援の充実度等 ※ものづくり等事業者は、郊外や埼玉県あるいは日本全国へのアクセスといった、都心以外へのアクセスに言及している。 ※より都心に近くて立地条件が良い地域や、より不動産が安い地域もたくさんあるが、西東京市はそのバランスとコストパフォーマンスが良い。 ・その他のメリット：職住近接、連携ができる事業者や仲間、車や流通の交通網、大学の活動フィールドとして良い、大学が多く若者が多い、伸びしろが多い、製造業の名残、ものづくり産業、工業のまち、駅が広くて大きい、ラーメン店が多い、商店街の歩行者天国、食の可能性、多摩六都科学館、パワースポット、古い町、新しく来た人と昔から住んでいる人のバランスの良さ、ウクライナ避難民への手厚いサポート等 ・西東京市のデメリットや課題：知名度の低さ、ブランド力の低さ、「西東京市」という名前そのもの、歩道が狭く歩きにくいなどのハード面、これが一番というもの（中核）や個性がない、企業や大学の市外流出等。 ・その他のデメリット：工業団地の不足、製造業のイメージがない、求人が集まらない、同業や類似事業者が少ない、ホテルがない、接待をする場がない、お酒を楽しめる個人店がない、市民が都心志向、将来の成長性・発展性、一部地域での交通アクセス不足、子育て世帯が多く高単価販売が難しい、市境での足並みの揃わなさ、線路での南北の分断、駅前の大型店やまちづくり行政、市のWebサイトが見にくい、市の公式LINEが知られていない、等。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 西東京市のメリットとして、都心へのアクセスの良さと住みやすい環境のバランス等が挙げられた。 ■ 西東京市のデメリットとして、市の知名度やブランド力の低さ、これといった特徴がない点を挙げる事業者が多い。

	現状と課題	まとめ
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり等事業者の課題：物価高騰、事業承継、人材確保、コロナによる仕事の減少等 ・商業・サービス等事業者の課題：コロナによる影響、人材確保、物価高騰、周知活動に関する課題等 ・創業1年程度の創業者の課題：今後の方向性の明確化、財務や雇用についての知識の不足、業務の効率化、店舗拡大、宣伝、スタッフの増員等 <p>〈物価高騰について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者によって販売価格に転嫁できている事業者とできていない事業者が存在する。 ・付加価値を持ち、他社にできないサービスや製品づくりをしている事業者については、価格転嫁ができていない。 ・BtoC（消費者向け）の商売をしている飲食店等は価格転嫁が難しい。 <p>〈コロナ禍の影響について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・影響のある事業者とない事業者とに分かれる。 ・飲食店や人が集まる事業は、コロナの影響を特に大きく受けた。 <p>〈連携について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会でのつながりや市民まつりでの事業者同士のつながりなど、事業者にとってはリアルで直接会うことが重要である。 ・コミュニケーションの機会が減るなど、コロナによって事業者同士の連携にも影響があった。 ・地元企業と連携したいという思いはあっても、大手とのコスト比較の結果、コスト面で合わないために連携できていないケースがある。 <p>〈SDGs、DXについて〉 ※事前アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs については無回答もしくは取り組んでいないとする回答が多い。取組み内容としては、省エネルギーに関する内容が多く、また自社商品に関して SDGs に取り組んでいるといった例もいくつか見られる。 ・DX については SDGs 以上に無回答もしくは取り組んでいないとする回答が多い。取組み内容としては、クラウドの活用やオンライン会議・チャットの活用、キャッシュレス化に関する回答が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ コロナ禍や物価高騰の影響の大小は業種によって異なるが、影響は現在も継続中である。 ■ コロナ禍で減少した事業者同士の交流や連携の機会を取り戻すことが求められている。

	現状と課題	まとめ
商店会	<ul style="list-style-type: none"> ・加入率の低さ、会員数の減少、高齢化、店舗の閉業、といった課題が多くあるが、いくつかの商店会では会員数を維持しており、あるいは増加している商店会も存在する。 ・会員数の減少については、商店会の店舗自体が減っていることで会員数が減っている場合と、店舗は減っていないにもかかわらず加入率の減少によって会員数が減っている場合がある。 ・商店会への加入について「納得させられるメリットを打ち出せない」という声があり、加入のメリットを明確にする必要がある。商店会によっては、メリットを明確化して説明するための資料を作成しているところもある。加入のメリットや必要性を含めて商店会のあり方をあらためて定義し直し、これまでになかった新しいメリットや価値をつくり出すことが求められている。 ・空店舗については、全く存在しない商店会と、対策に困っている商店会が両方存在する。商店街が住宅等で歯抜けになったり、商店街が長くなったりしているところもある。一度商店が住宅になるとまた店舗が出店することはより難しくなるため、その点も踏まえて空店舗対策を検討することが求められる。学生は活動の拠点として空店舗を活用したいというニーズも判明した。 ・東伏見商店会など学生と連携している商店会もあるが、多くの商店会では企業や学生あるいは地域との連携状況は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商店会の会員数増加につなげるために、商店会に加入するメリットの明確化等の取組みが求められている。 ■ 商店街の維持のため、空き店舗対策が求められている。
大学・研究機関	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩六都科学館では、地域での講座開催や、市民がボランティアとして運営に携わるなど、地域との結びつきが強い。一方で、圏域5市のバランスや公平性を考える必要もある。イベントにおける市内事業者の活用や、農業など産業に関わるテーマでの講座の実践など、産業振興にも大きな影響を持つことが期待される。 ・亜細亜大学のキャンパスは武蔵野市にあるが、西東京市に住む学生も多く、市の取組み内容によっては、より多くの学生が市内に訪れるポテンシャルを持つ。経営学部の学生が経営を学ぶフィールドとして西東京市を訪れることも可能である。 ・武蔵野大学は、西東京市内にキャンパスがあるため、西東京市に住む学生が多く存在する。2021年開設のアントレプレナーシップ学部は、学生の起業が必須とされており、産業との結びつきが強い。西東京市の行政や市民とのつながりは薄い、大学の活動フィールドとして良いという意見もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現在は西東京市と連携する機会が少なくとも、今後連携できる可能性は高い。

(2) 産業振興に関するアイデアについて

【持続可能な「農」が共生するまちをつくる】

【多様な「しごと」が生まれ循環するまちをつくる】

〈創業支援の強化〉

- ・若い人がチャレンジできる仕組みを作る。
- ・西東京市が創業に力を入れていることをもっとPRする。
- ・学生向けの起業支援に力を入れる。
- ・創業者向けの講座の数を増やし、内容も充実させる。

〈雇用の創出〉

- ・上場企業を誘致する。
- ・個人事業主が人材を雇用する際の方法等について支援する。

【身近な「商店街」が暮らしを支えるまちをつくる】

〈商店会への加盟促進〉

- ・商店会会員になるメリットを明確にして、会員数を増やす。
- ・メリットを説明する資料をつくる。
- ・組織の透明性を高めて、誰でも運営できるようにする。

〈商店会同士の連携〉

- ・商店会同士が話し合う場を継続して開催する。
- ・住民や学生にイベント運営を手伝ってもらう。
- ・商店会の会員店舗が別の店舗や商店会を紹介する仕組みをつくる。

〈空き店舗の活用〉

- ・学生はやりたいことがあっても活動場所がないため、空き店舗を貸してほしい。
- ・若い人が空き店舗を活用することで、後継者問題を解決する。

【魅力ある「西東京市ブランド」が輝くまちをつくる】

〈西東京ブランド〉

- ・特産物があれば、西東京市を知ってもらえる。
- ・野菜や果物など、食のブランド化をする。
- ・多摩六都科学館など、既にある地域資源を活用する。

〈情報発信〉

- ・YouTube や Instagram を活用する。
- ・自ら情報を取りに来ない事業者に、どうやって情報を届けるか考える。
- ・デジタルのみではなく、紙媒体でも情報発信する。

〈連携支援〉

- ・事業者の交流会を開催する。市の主催だと安心できる。
- ・事業者のお悩み相談会を実施する。
- ・事業者の連携のハブをつくる。

〈テーマを絞った取組み〉

- ・取組みの優先順位をつけて実行する。
- ・取組みのターゲットを明確化する。
- ・大学生に特化したまちづくりを行い、若者が多いまちにする。